

## R I 職業奉仕委員会に関するつぶやき (その一)

2700 地区 PDG 廣畑 富雄 (福岡西)

源流の会は、内輪の会だと思います。それで、委員として経験した、R I 職業奉仕委員会に関するつぶやきを、書いてみます。系統的な記述ではありませんが、皆様方の、参考になれば幸いです。またご意見を、寄せて頂くことを歓迎します。

1. R I 職業奉仕委員会は、これは **RI Vocational Service Committee** の訳です。しかし私は、こうは訳したくない、職業サービス委員会と訳したい、と思っています。**Vocational Service** を、職業奉仕と訳すと、誤解が生じるのでは、と要らぬ心配をしています。奉仕には、無報酬の行為という概念がある。しかし職業奉仕は、自分の職業を通じたサービスであり、むろん報酬が伴います。そして顧客などのサービスになる、職業サービスを行う事により、その企業の繁栄に通じるのです。お医者さんであれば、患者さんのためを一番に考えれば、患者さんが自然に多く集まり、病院が繁栄し、収益が上がるでしょう。

そこから、「**He Profits Most Who Serves Best**、最もよく奉仕(サービス)するもの、最も得るものが多い」というモットーが生まれます。「最も利益が上がる」、そういう訳も、以前はあったようです。私は、米山さんが訳されたように、奉仕ではなく、原語のサービスという言葉を使いたい、と思っています。サービスの概念の方が、奉仕の概念より、遥かに広いのです。米山さんの意見については「ロータリーの理想と友愛」ポールハリス著、米山梅吉訳、三省堂、昭和 11 年発行、をご覧ください。昔の本で、インターネットで探さないと入手できないでしょうが。なお最近、米山さんの訳に忠実な、「ロータリーの理想と友愛・読本」富田英寿編、(株)四ヶ所(電 0946-22-2369)、が出版され、良い参考になるでしょう。

2. この委員会は、長年開かれていなかったのが、開催されることになりました。何年の間をおいて開かれたのか、私は調べてはいませんが、ご存知の方はどうかお知らせください。委員会は3年の予定で、最初の年、これは2007 - 8年ですが、日本では私に委員のご依頼がありました。そして、2008年の4月に、エバンストンのR I 本部で開かれた委員会に、出席しました。私が委員に選ばれた理由は分かりませんが、むろん日本のリー

ダーの方たちのご推薦でしょう。2007年の規定審議会で、英語で立法案の趣旨説明をし、難しいモットーに関する立法案を通すことができ、その関係でご依頼が来たのか？と想像しています。ちなみにその時の理事のお1人は、渡辺好政さんでしたが、理事会と委員会とのリエゾン役として、委員会に出席されました。なおインドの サブーR I 元会長も、アドバイザーとして出席されました。

3. この小文の題に、「つぶやき」と記したように、系統的な論文形式の記述ではないことをお断りします。この委員会の討議の終わりに、まとめとして、R I 理事会に対し、種々の提案をしました。R I 理事会は、その一つを除き、すべて受け入れました。その例外は、職業奉仕（サービス）推進のために、試験的に、各ゾーンにコーディネーターを置く、その提案でした。リーマンショックの後で、R I の財政が非常に厳しく、支出削減が大きな命題になっていたために、受け入れられなかったのかもかもしれません。
4. 出席した各国からの委員は、確か7名ぐらいだったと思います。サブー さんや、渡辺さんもおられる、R I 事務局の人も数人いる。会議の最後に、委員一人ずつ感想を求められました。特に覚えているのは、ヨーロッパの方でしたが 「この会議は非常に有益であった、職業奉仕（職業サービス）が良く分かった」という発言でした。正直な発言をされるのに感心しましたが、しかしその方は、すでにR I の理事を務めた方ですから、理事の前に、理解しておいて頂きたかった、と思った鮮明な記憶があります。各国で、良く理解されていない、そういう事なのでしょう。

(つづく)

2013.11.1